

JICA Brazil Business Communication

～ブラジルの第一線で活躍するビジネスパーソンの皆様へ～

目次

1. 民間企業との連携

- (1) フジタ・ニノミヤチェア創設記念式典（MUFGによる寄附表明）
- (2) 第3回日系病院連携協議会の開催（日本企業による製品紹介）
- (3) 【募集中】第9回中南米日系社会との連携調査団
- (4) 【プレ公示中】中小企業・SDGs ビジネス支援事業

2. トピックス

- (1) 日本人ブラジル移民111周年記念式典（上院・下院本会議場）
- (2) 伯国農業大臣、環境大臣のJICA本部訪問
- (3) 国立アマゾン研究所（INPA）での「科学の家」リニューアル開所式
- (4) 第三国に対する伯政府との協同事業「三角協力」

《今後の主なイベント》

- 8月31日：緩和ケア市民公開セミナー「緩和ケアと命について」@サンパウロ文協
9月12～14日：アマゾン移民90周年プレスツアー@トメアス、ベレン

【コラム】 ～「JICA 海外協力隊（民間連携）」をご存じですか？～

先月23日に合計23名のJICA日系社会海外協力隊が着任し、総勢90名のボランティアが国内の日系社会において、様々な分野で活動しています。ボランティアの参加形態は様々で、それまでの仕事を退職して参加される方や、現職の先生方のように学校や勤務先に所属を置いたまま参加している方も少なくありません。中でも、最近少しずつ増えている参加形態が「JICA 海外協力隊（民間連携）」での派遣です。

このプログラムは、企業の若手社員や管理職の育成のために、また事業の新興国への展開や開発途上国を対象としたBOPビジネスの足掛かりを築くために、社員をJICA海外協力隊員として派遣するプログラムです。社員が参加することによりグローバルな視野や素養が身に付き、帰国後の企業活動に還元していくことが期待されています。

＜他国で本プログラムを活用した企業＞

スポーツデータバンク株式会社、プロニクス株式会社、株式会社サガミチェーン、江崎グリコ株式会社、凸版印刷株式会社、会宝産業株式会社等

詳細は以下の下記リンク先をご参照下さい。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/relevant/company/cooperation/>



1. 民間企業との連携

(1) フジタ・ニノミヤチェア創設記念式典（MUFGによる寄附表明）

2019年7月23日、ジャパン・ハウスにて、MUFGバンク（ブラジル）、サンパウロ総領事館との共催で「フジタ・ニノミヤチェア創設記念式典」を開催しました。本式典は、三菱UFJ銀行の中南米における創業100周年の機に、サンパウロ大学（USP）とJICAが共同で実施する「日本開発研究プログラム（フジタ・ニノミヤチェア）」への寄附を表明頂いたことを受け、これを記念して開催しました。本プログラムは、JICA 開発大学院連携の一環として、日本国外の大学として世界で唯一、USP 法学部に開設するものです。式典には、伯外務省 SP 支部局長、SP 州国際局長代理、SP 市国際局長、山田大使、USP 学長、法学部長、二宮正人教授、フジタ大使未亡人、主要日系団体会長、ブラジル日本商工会議所会頭始め理事会社約 20 社等、計 120 名以上に参加頂き、多くの日伯関係要人からプログラム創設に対する感謝と期待が述べられました。

11月4日（月）19時には、弊機構理事長の北岡がUSP 法学部にて特別講義「日本の近代化の歩みと日伯関係」を行います。ご関心ある方は、以下リンクより申し込み頂けますと幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfaR6fv4anfVd3wUWJrSmkMJgwdMQRIPBnVgeQNTTEEROm0Jw/viewform>



理事長の北岡によるビデオメッセージ



主要関係者による記念撮影

「MUFGバンク＝ブラジル進出100周年＝藤田・二宮USP講座に寄付＝日伯関係者がJHで記念式典」

<https://www.nikkeishimbun.jp/2019/190726-71colonia.html>

(2) 第3回日系病院連携協議会の開催（日本企業による製品紹介）

2019年7月31日、サンタクルス病院主催、JICA協力にて「第3回日系病院連携協議会」を開催しました。参加者は、サンタクルス病院、サンパウロ日伯援護協会・日伯友好病院、アマゾニア病院、杉沢病院、ノーボ・アチバイア病院の理事長・理事、栄養士を中心とした日系病院代表者、日本から九州大学と大阪大学の代表者、在サンパウロ日本国総領事館、本邦企業ら約80名に上りました。



サンタクルス病院院長による本邦企業製品紹介

日系企業による製品紹介コーナーでは、サンタクルス病院の「Show Room」プロジェクトの一環として、日頃製品を使用している医師や看護師が本邦企業の製品説明を行いました。この取り組みは、ユーザー目線で製品をアピールすることで、伯国医療機関へ本邦企業の製品や技術の普及を目指しています。

協議会では、人材育成や人的交流の意義、遠隔教育技術等の活用や、一般市民、家庭への波及、そして今後の協力可能性についての意見交換が行われました。また、2019年5～6月にJICA日系社会研修「日本の病院食（栄養管理）」に参加した日系6病院の栄養士を中心に、九州大学から学んだ成果を活かした「栄養士プロジェクト」を発足しました。今後は、日系6病院と九州大学が1～2か月に一度のテレカンを行い、疾患に合った献立開発を行います。

次回はアマゾニア病院での実施を予定しており、更なる日系病院連携強化に向け、JICAは今後も協力を続けていきます。

(3) 【募集中】第9回中南米日系社会との連携調査団

7月16日より「第9回中南米日系社会との連携調査団（ブラジル、ボリビア派遣）」の参加者を募集しています。行程は、2020年2月1日（土）～2月17（月）の計17日間、対象企業は、ブラジル、ボリビアにおいて事業進出・投資・製造拠点を設置する計画及び意志のある日本の中小企業となります。申込書の提出期限は9月27日正午（日本時間）です。

詳しくはこちら：<https://www.jica.go.jp/regions/america/news/20190716.html>

本連携調査団を活用した成功事例として、株式会社シーエンジをご紹介します。同社は2017年度に「ブラジル日系医療機関との連携調査団」に参加され、その後、JICA 中小企業海外展開支援事業（案件化調査）へ応募し採択されました。案件実施中に、パラ州、サンパウロ州、ミナス・ジェライス州でビジネス調査を重ね、その中で製造パートナーを確定しました。そして昨年9月、ブラジルでの現地法人設立を果たし、現在は現地生産に向けた準備を進めています。

(4) 【プレ公示中】中小企業・SDGs ビジネス支援事業

7月8日より「中小企業・SDGs ビジネス支援事業」の提案募集（2019年度第二回プレ公示）を掲載しました。第二回公示は10月1日を予定しています。この事業では開発途上国の課題を解決する優れた技術や製品を有する日本企業の海外展開を支援します。企画書の提出期限は11月1日です。

詳しくはこちら：https://www.jica.go.jp/priv_partner/activities/sme/index.html

2. トピックス

(1) 日本人ブラジル移民 111 周年記念式典（上院・下院本会議場）

6月11日と7月8日、ブラジリア連邦下院及び上院本会議場にて、「日本人移住 111 周年特別セッション」と題する式典が開催されました。上院にはセシリア・イシタニ伯外務省日本・朝鮮半島・太平洋局長、ブラジル中西部日伯協会連合会長ルイス・ニシカワ氏が、下院にはルイス・ニシモリ議員、キン・カタギリ議員らが登壇しました。日本側は両日とも山田大使、佐藤所長が登壇し、上院では約 120 名、下院では約 300 名が来場しました。



日系関係者との記念撮影

佐藤所長のスピーチでは、伯国と日系社会の発展に向けた当機構の協力について言及しました。特別セッション議長のバーホス上院議員は、日本人がブラジルにもたらした経済発展への貢献や、食、スポーツ、文化等への貢献について述べられました。また、イシタニ外務省局長からもセラード農業開発事業をはじめとするナショナルプロジェクトへの貢献、そして、本年 60 周年を迎える長年に亘る日本の経済協力への感謝が述べられました。

(2) 伯国農業大臣、環境大臣の JICA 本部訪問

G20 の大臣会合に合わせ、5月9日にはテレザ・クリスティーナ農務大臣が、6月14日にはヒカルド・サレス環境大臣が JICA 本部を訪問、それぞれ越川副理事長、鈴木理事と面談されました。クリスティーナ農務大臣からは、これまでの日伯農業協力に対する感謝が述べられるとともに、今後の持続可能なアグリビジネス協力強化推進につき言及されました。具体的には、EMBRAPA が進めている農畜林混合農業（iLPF）、中小農家による技術活

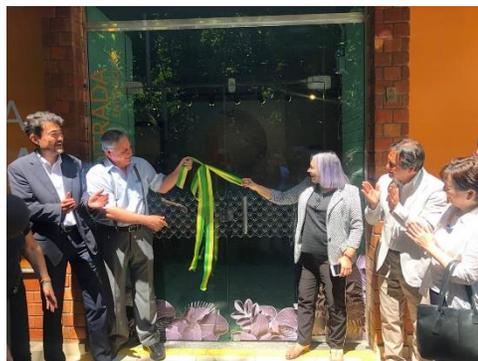
用を通じた生産性・所得向上、輸送ロジインフラ整備等につき、更なる協力・連携への期待が示されました。

また、サレス環境大臣からは、現在 JICA とブラジル環境・再生可能資源院（IBAMA）で形成している、JAXA 衛星（ALOS2）と産業総合研究所の AI 技術を活用した違法伐採監視システム協力（来年開始予定）に対する強い関心が寄せられました。また、同省は都市環境改善を最優先政策に掲げており、下水道インフラ、固形廃棄物処理等の官民連携への期待も言及されました。

引き続き SDGs 達成に向けた協力展開を図っていきたいと思います。

（3） 国立アマゾン研究所（INPA）での「科学の家」リニューアル開所式

6月4日、マナウスのブラジル国立アマゾン研究所（INPA）にて州政府、INPA 代表者、環境団体、在マナウス日本国総領事館の参加の下、「科学の家」のリニューアルオープンが行われました。「‘フィールドミュージアム構想’によるアマゾンの生物多様性保全プロジェクト」では2014年7月よりマナウス周辺の森林保護区で生物多様性に関する調査を実施してきましたが、今般、その調査結果をマナウス市民に還元するべく、日伯研究者の協力のもと、INPA の既存の施設である「科学の家」の展示内容をリニューアルしました。「科学の構造」と題された新展示では、アマゾンの生態や生物多様性、自然現象について学ぶことができます。新しい科学の家を通して、訪問者がアマゾンの豊かな生物多様性についてより深く学べることを願っています。



「科学の家」開所式



展示内容

(4) 第三国に対する伯政府との協同事業「三角協力」

ブラジルでは、過去の JICA 協力の成果を中南米・アフリカ等の他地域へ普及すべく、ブラジル人専門家と技術協力を行う「三角協力」を様々な分野で展開しています。かつて、サンパウロ州が中心となって日本式交番システムの導入を始め、治安改善に大きく貢献しました。その成果を他地域にも普及すべく、エルサルバドル、グアテマラ等と協力しています。6月にグアテマラの研修生が来伯し、ブラジル人警察官により研修を実施しました。

また、ブラジルの労働生産性向上に貢献した日本式モノづくり、カイゼンや5Sといった概念・取組について、かつての技術協力で技術を身に着けた全国工業職業訓練機関（SENAI）の専門家らが中心となり、ポル語圏アフリカ諸国、パラグアイ等の関係者を対象に研修・技術指導を実施しています。

さらに、ミナス・ジェライス州のソフィアフェルドマン病院が中心となって、自然分娩や母子のケアの改善を中心とした「人間的出産」をアフリカ諸国にも広げるべく研修をしており、次回は10-11月にモザンビーク、アンゴラから来伯予定です。帝王切開が主流だった伯国において、JICA 協力により「人間的出産」が認知され、今では伯国内制度でも推奨されています。

これらはほんの一例ですが、様々な分野における日本式の仕組み・制度・技術がブラジルに根付いており、その技術を活用して今度はブラジルが他国への技術移転を行っています。中南米・アフリカ諸国にとって、言語、文化、経済状況等がより近いブラジルから教わることで、より現地の実情に即した協力が期待されます。今後も、三角協力を通して日本の技術が途上国の人々の生活向上につながることを願っています。



SENAI による職業訓練



人間的出産の研修

以上

今後も皆様にご関心を持って頂けるよう、内容の充実を図る所存でございます。つきましては、ご意見、ご要望等ございましたら、下記連絡先までご連絡いただければ幸いです。

今後とも引き続き、どうぞ宜しくお願い致します。

【問い合わせ・連絡先】

国際協力機構（JICA）ブラジル事務所

（※7月1日よりサンパウロが事務所になりました）

担当：間瀬 将成

電話：(11)-3251-2655 (ex. 105)

Email：Mase.Masanari@jica.go.jp